探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：府中町立府中中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
府中中学校	２１	６５５
府中小学校	２８	８３８
府中東小学校	１６	３７９
府中北小学校	１６	３６６

（R5.3.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

「主体的・対話的で深い学びの創造～探究的な学習のカリキュラム開発・実践～」

（２）資質・能力の設定について

昨年度，４校で整理し作成した府中中学校区でめざす資質・能力を活用した。

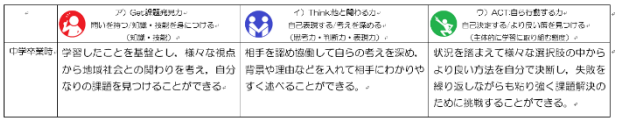
（３）取組について

①資質能力をベースとした評価指標の作成

中学校区で整理した資質・能力を基盤とし，中学校卒業時にめざす姿を策定した。それをもとに，各校で単元ごとに評価指標を作成した。

第5学年　ルーブリック表

5年	B	A	S
目標に向かう力	自ら課題を設定することができる。	自ら課題を設定し、見通しをもって計画を立て実行することができる。	自ら課題を設定し、見通しをもって計画を立て実行し、新たな課題を発見することができる。
情動を制御する力	課題解決に向けて取り組むことができる。	課題解決に向けて粘り強く取り組むことができる。	課題解決に向けて、さまざまな方法を探し、なかなか粘り強く取り組むことができる。
他者と協働する力	多様な意見を尊重することができる。	多様な意見を尊重し、手伝いを求めることができる。	多様な意見を尊重し、手伝いを求めたり、自分なりの考えをやってこることができる。



	ア）Get 資質・能力 問いを持つ（知識・技能）を身につける。（知識・技能）	イ）Think 他と関わる力 自己表現する／考えを深める。（思考力・判断力・表現力）	ウ）ACT 自ら行動する力 自己決定する／より良い解を見つける。（主体的に学習に取り組む態度）
中学卒業時	学習したことを基盤とし、様々な視点から地域社会との関わりを考え，自分なりの課題を見つけることができる。	相手を深め協働して自らの考えを深め，背景や理由などを入れて相手にわかりやすく述べることができる。	状況を踏まえて様々な選択肢の中からより良い方法を自分で決断し，失敗を繰り返しながらも粘り強く課題解決のために挑戦することができる。

②評価指標の児童・生徒との共有

作成した評価指標を基に，ルーブリックを児童・生徒と共有し主体的に学べるよう授業を構成した。また，年度初めには，総合的な学習の時間の授業開きを行い，中学校卒業時の姿と同時に３年間の総合的な学習の時間の取組方法について確認をし，取組を始めた。

２　実践事例

①　府中町立府中小学校

校内研修で本校が育みたい資質・能力に合わせて，ルーブリック表を作成した。ルーブリックを話し合う中で，子どもたちがより高次の評価に近づくためには，どのような単元構成を行えばよいか，どのような授業の仕掛けが必要になるかなど，具体的な授業設計を検討でき，授業を充実させることができた。

○総合的な学習の時間「府中町のキラリ発見!! 発信隊!」（３年）

府中町は，住みやすい町ランキング１位（中四国）に輝いている。単元の導入で，「なぜ１位なんだろう？」と考えることで，子どもたちの思考が駆動していった。考える中で，府中町役場の職員や地域でボランティアをされている方などに意見を聞きたいという思いが出てきて，ゲストティーチャーとして来校していただき，お話を聴かせていただいた。その中で，府中町を大切にしている人々がいることに気付いた。そして，「より住みやすい町」にしていくために，自分たちにできることを考え，実行していく計画を立て，三学期に実行した。

○総合的な学習の時間「身近な環境からよりよい世界へ　府中町キッズ環境プロジェクト～府中町がいつまでも住みよい町であるために～」（４年）

単元の導入に，世界も日本もごみ問題に直面している事実を知った。そこから，「私たちの府中町はどうなんだろう？」と問題意識を持たせることで，子どもたちの学びが進んでいった。府中町のごみ問題について調べたり，環境課の方にお話を聴いたりする中で，「今のままではいけない」という気持ちを強め，解決するために自分たちにできることを考えたり誰に何を伝えれば，問題の解決につながるのかを考えたりしていった。今後，府中町のごみ問題を解決するために考えたことを，これから実行していく予定である。

②　府中町立府中東小学校

本校では，本年度設定した「育てたい資質・能力」を基にしたルーブリックを児童と一緒に作成することを目指して取組を始めた。授業研究をしていく中で，「めあてを立ててルーブリックを共有して活動を始めると活動時間を十分確保できなくなる」という課題が浮かび上がった。授業の内容を充実しつつ，児童がより主体的に学習することができるようにするための方法を模索し，今年度は，めあてとルーブリックを深く関連付けて児童と一緒に考えることにし，実践した。

○総合的な学習の時間「見たい！知りたい！府中町！」～ずっと住みたいと思える府中町を夢見て～（3年）

３年生は当初「福祉」について学習を進めようと計画を立てていた。しかし，児童がもった疑問や調べたいと感じた課題を追求するよう計画を立てていくうちに，児童のやりたいことが「よりよい町づくり」であることが分かり，当初の計画を大幅に変更して，単元を組み直していった。

自分たちの住む府中町が「住みたい町ランキング第1位」になったことを受け，府中町の魅力について予想したり，自分たちで立てた課題に対して調査活動を行ったりすることを通して，「ずっと住み続けたいと思える府中町にするために，自分たちにできることは何か」という問いを追求しながら意欲的に学習を進めた。学習を進めるうちに，府中中学校の３年生が町づくりについて詳しいという情報を得たため，自分たちが保護者に発表しようとしている内容についてアドバイスをしてもらうことにした。オンラインで発表を見てもらい，適切なアドバイスをしてもらうことができた。それを受けて，より良い発表になるように改善を重ねている。

○総合的な学習の時間「われら平和メッセンジャー」～誰もが平和だと感じる世界にするために～（6年）

「平和」について過去の事実を調べていくうちに，「『戦争をしない＝平和』とはいえないのではないだろうか」「みんなが平和だと感じる世の中にするにはどうすればよいのだろう」という新たな課題が生まれた。そこで，どのような世の中なら「平和」だといえるかを考えていった。SDGｓとつながることに気付き，具体的に自分が実行できることは何かを考え始めることができた。

今後，具体的にどんなことに取り組んでいくかを考える中で，「どのような自分になりたいか」自分の生き方にも焦点を当

て，将来の自分について考えることができるようにする。

③　府中町立府中北小学校

本校では「北小ルーブリック」を作成し，育てたい資質能力について「評価観点」を設定し，それぞれに「評価基準」を具体的に定めることにより，到達目標に近づけるようにしている。到達すべき姿を共有することで，児童がめざすべきことを意識して学習を進めることができ，主体的に学習に取り組めたり，振り返りを行い，次時の課題へつなげたりすることができるようになりつつある。

○生活科「ステップアップで　みんながにこにこ大さくせん」―ぼく・わたしもできるよー（第1学年）

「家庭での活動を交流し，家族の一員として，自分や家族が笑顔になるためにさらにできそうなことを考え，表現できる」ことを目標に単元を設定した。

本時では，「自分や家族がもっとにこにこ笑顔になるために，挑戦したいことを考えている」ことを到達目標として設定し，児童と共有した。

自分でできることが増えることは，家族にとってもうれしいことであることに気付き，友達と自分ができるようになったことを紹介し合うことで，新たに挑戦したいことを見付け，実践していこうという意欲につなげることができた。授業後に，アドバイスをもらった6年生に報告カードを書いたり，これから頑張りたいことを書いて家庭に持ち帰ったりすることで，さらに自分でできることを増やしていっている。

○総合的な学習の時間「災害から命を守る」―みんなへつなぐ視野を広げよう　自分の地域の防災マップづくりー（第5学年）

「自分たちの目で見て考えて防災マップを作成し，地域の人や他学年に伝えることができる」ことを目標に単元を設定した。

本時では，「自分の意見と友達の発表を比べながら聞き合い，危険個所や避難経路について考えている」ことを到達目標として設定し，児童と共有した。

事前にフィールドワークで確認すべき視点をはっきりさせておいたり，それぞれの地域での危険個所の共通点などを見付けたりすることで，友達の意見と比較したり関連付けたりしながら，考えることができた。今後は，防災マップを作成し，全校児童や，保護者，地域の方へ学んだことを広げていく。

④　府中町立府中中学校

本校では，「10年後も住みたい府中町であり続けるには」という問いに対して「探究・椿」と「探究・志」という２つのコースを設定し，３年間系統的に探究的な活動を行っている。「探究・椿」では地域に関わる課題について，「探究・志」では進路選択をはじめとする自分の将来についての探究を行っている。

また，それぞれの単元の内容をSDGｓと関連付けて考えると同時にプレゼンテーション力を高めるための取組も段階的に行った。

○総合的な学習の時間　「探究・椿：地域交流プロジェクト」～住み続けたい町を目指して～（２年生総合リーダー）

本質的な問いを「府中町をより良くするために他地域でどのようなことが調べられるだろうか」とし，単元を貫く問いを「10年後も住み続けたい府中町であるために，どのように府中町の伝統を継承し，発信すればよいのだろう」とした。

本時は，修学旅行の京都自主研修をどのような視点やテーマで行くのかを考える課題発見の場面であった。本研究授業には修学旅行のリーダーとして集まった70名のリーダーの中から６クラス６名ずつの計36人が参加した。

授業では，最初に京都のどのようなものを見たり，食べたり，体験したりしたいかを付箋に書き入れ，それを班ごとにまとめ，全体で黒板に貼っていきまとめていくというKJ法をおこなった。そして，そのまとめたものが府中町にどのようにつながるか，生かすことができるのかをGoogleのスライドにまとめ，発表をし，修学旅行をどのような学びの場所にするのかを考えた。これらのアイディアをもとに生徒一人一人が修学旅行におけるテーマを設定し，府中町のためにどのようなことを学んでくるかを計画し主体的に探究する修学旅行を実施した。

○総合的な学習の時間「探究・椿：住みたい町づくりプロジェクト」（第３学年）

この単元では，本質的な問いを「10年後も住みたい府中町とはどのような町だろうか」とし，単元を貫く問いを「持続可能な府中町のために，今どのようなことが必要なのだろうか」とした。

３年間の学びをもとに府中町で実践したい企画を個人で立案し，それをプレゼンテーションして仲間を募り，チームを決定した。そのチームで，再度企画を練り直し，提案，実践できるように進めた。「中間報告会」を行い，企画内容や方向性について，校外の方から具体的なアドバイスをいただく場を設け，内容を修正，改善し，校外の企業や団体と交渉し，企画を進めた。企画内容を広く知ってもらい高めていくために，活動内容を報告したり体験したりできる「椿フェスタ」を開催した。これらの活動を通し自分自身がどのような貢献をするか，そのためにどのような力を付けなければならないかを表現した。

その過程から，自分の考えをわかりやすく伝える力，意見の違う人と一つのものを完成させる方法を学んだ。また，中学生でも地域の課題について具体的に考え行動することで地域の大人を動かすことができるということを実感する生徒が多くいた。

３　研究の成果と課題等

（１）成果

ルーブリックがあることでゴールが明確になり，児童・生徒の主体的な学びにつながっていくと同時に教師側にとっても単元構想をより明確にすることができた。また，総合的な学習の時間だけでなく，他教科でもルーブリックを活用しようとする動きが始まり，探究的な学びのスタイルが広がりつつある。

（２）課題

ルーブリックの提示の仕方が，まだまだ教師主導になっている。児童・生徒が主体的に学びを進めるために，ルーブリックの共有の仕方を工夫する必要がある。また，教師の間でもルーブリックの捉え方を完全に共有できておらず，指導に違いが見られた。

さらに，他教科での学びを関連付けることが十分にできておらず，学びが自分事になりにくい。

（３）今後の改善方策等

中学校卒業時にめざす姿を基に，それぞれの単元においてめざす姿を児童・生徒と共有できるよう手立てを講じていく。また，「府中中学校区９年間の学びマップ（仮）」の作成に着手している。

これをもとに校内だけでなく校区内の教師で単元の流れや教科のつながりを共有し単元についての意見交換をすると同時に，児童・生徒とも共有し，児童・生徒の主体的な学びにつなげていく。